

新型コロナウイルス感染症対策下における子ども虐待防止に資する
助成事業報告書(HP掲載用)

団体名	居場所作りプロジェクトだんだん・ばあ
事業名	SOS が発信できる地域作り(情報発信の在り方を考える)子どもの居場所作り事業を通して
活動期間	2020年 6 月 下旬 ~ 2020年12 月 末日

実施内容	<p>コロナ禍により「いつもと同じ」が保証されない子どもたちに対し、変わらない場の提供を心掛け非常事態宣言中の休校時は活動日を増やし子どもたちの変化がつかめるように活動を行った。(お弁当の配布、行事の開催等を毎週水曜日に開催)休校中は自宅に子どもだけで過ごす様子や生活リズムが崩れ昼夜逆転がみられるなど課題も多く、学区の養護教諭と情報共有を行った。また、他者とのつながりを絶たれ孤立化した「家」を支えるため必要な情報が必要な場に届くようにホームページのリニューアル(相談機関や情報へのアクセスが可能となるようにリンクさせ、リンク先の団体とも対応等の協議を行った)を行った。また、子どもたちや家庭との情報共有が双方向となるようLINEの開設を行った。子どもたちには、コロナによる影響を鑑み、子どもたち自身が自身の足で立ち、自分の頭で考え、身を守ることができるようにふるすあるは発行の生きる冒険地図を一人一人に配布した。</p> <p>生活環境が大きく変わり制限が増える中で、地域全体が子育てを支える仕組みを作ることを目指し、NPOとしての活動を、広報することに努めた。認知の広まり、活動の意義の理解が進むことにより、学区の小中学校や地域住民の協力を得ることができつつある。</p> <p>2020年7月～12月までは 子ども食堂14回、学習室5回を開催した。</p> <p>12月16日には地域住民に対する活動報告会(年間1600人の子どもが参加したこと、助成金をいただき活動したこと等を報告)</p> <p>12月23日にはクリスマス会を開催、学区の小中学校長に参加いただき活動報告を行った。</p>
成果	<p>子ども食堂の参加者 子ども735人 ボランティア:298人 学習室の参加者 子ども:16人 ボランティア:31人</p> <p>双方向性のLINEを開始したことにより、DV相談が増加。活動を継続していることにより参加が途絶えていた、高校生の参加も見られるようになった。またホームページ等の情報公開により市内学区外の家からの問い合わせも増え、需要の高まりを感じた。</p>